

漢方の基礎知識

コンテンツ

- 1) 「漢方」は日本独自の名前：中国伝統医学との違い
- 2) 漢方の診断：証
- 3) 漢方の診察：四診
- 4) 陰陽：寒がりの「陰」、暑がりの「陽」
- 5) 虚実：エネルギー不足の「虚」、悪いものが入る「実」
- 6) 気血水：体の中の3大物質
- 7) 気血水の異常：不足 or 停滞
- 8) まとめ

本稿では少し漢方独特の観念的な話に入っていきます。漢方の診断と治療の基本に関わる大事な部分のみ、ごく簡単に説明していきます。

興味の無い方は読み飛ばして頂いても結構ですが、知っているとより理解が深まると思います。

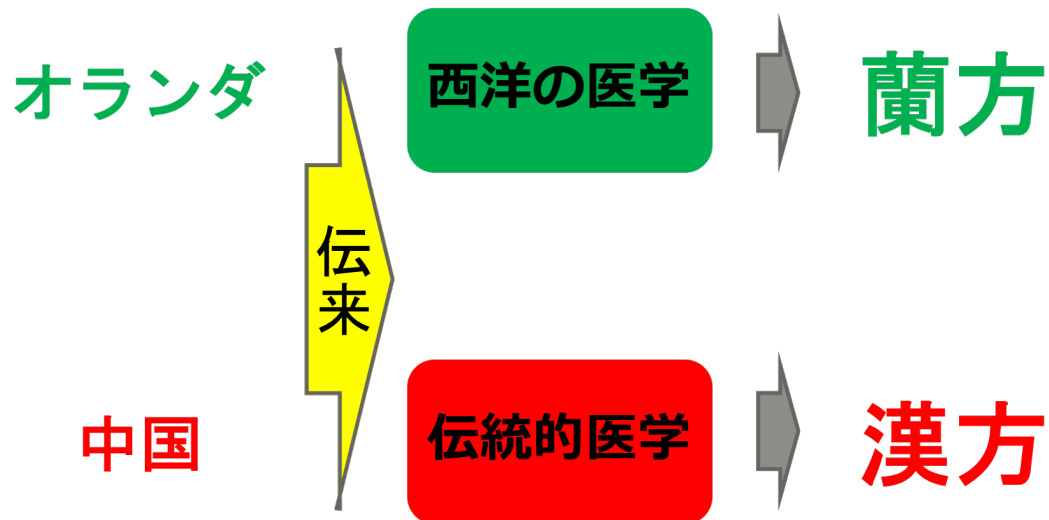


1) 「漢方」は日本独自の名前：中国伝統医学との違い

古来、日本での医学は、もともと中国から渡ってきたものでした。

しかし江戸時代に入りオランダから西洋医学が導入されたことによりこれまで

の医学と用語を分ける必要が出てきました。



そこでオランダから入った医学を「^{らんぼう}蘭方」と呼んだことから、それまでの医学を「漢方」と呼び分けることになったのです。つまり、漢方という言葉は日本独自の用語です。

現在、中国伝統医学は^{ちゅういがく}中医学と呼ばれ、複雑な理論体系を持っています。

一方で日本の漢方は江戸時代以降、独自の進化を遂げ、観念的な理論に頼らず、より実践的な医学を目指してきました。

中医学： 複雑な理論を用いて診断・治療を行う

日本漢方： 理論はあまり考えず、「この薬が効くから使う」と考える

しかしあまりに理論が少ないと伝承しにくいので、日本漢方でも最低限の用語と理論は残しています。

中医学と日本漢方では同じ用語でも少し異なる意味で使われているものもあり、多少の混乱があります。

ここでは主に日本漢方で用いている用語で説明していきます。

2) 漢方の診断：証

「証^{しょう}」とは前述の通り、漢方における診断名です。

後述するようにエネルギーの足りていない人を「虚証^{きょしょう}」と言ったり、例えば葛

根湯が合う病態の人をそのまま「葛根湯証^{かっこんとうしょう}」と言ったりします。

3) 漢方の診察：四診

漢方の診察は、**四診**^{ししん}と言われ、**望診**^{ぼうしん}・**聞診**^{ぶんしん}・**問診**^{もんしん}・**切診**^{せつしん}の4つからなります。

■ **望診** 見ること：見た目の様子、舌の形状・舌苔などを見る。

■ **聞診** 聞くこと：声の様子、腸蠕動音などを聞く。
嗅ぐこと：口臭、体臭、便臭などを嗅ぐ

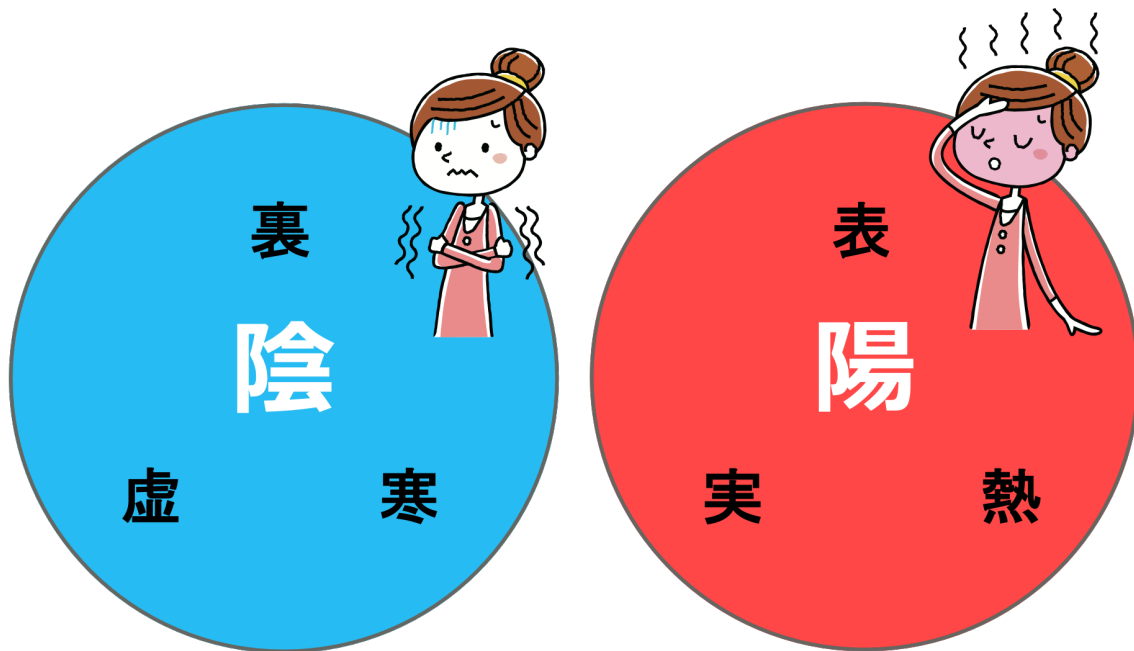
■ **問診** 問うこと：西洋医学の問診と同じだが、
体質などを含めてより詳しく聞く

■ **切診** 触ること：脈を触れる脈診、お腹を触る腹診など。

特に日本漢方においては、**腹診**^{ふくしん}が重要で、例えば**頭が痛い**という主訴でも、**お腹の診察**をします。

それは漢方ではある一つの症状を治療するのではなく、全身の異常の中の徴候として表れているという考え方をしているためです。

4) **陰陽**^{いんよう}：寒がりの「陰」、暑がりの「陽」

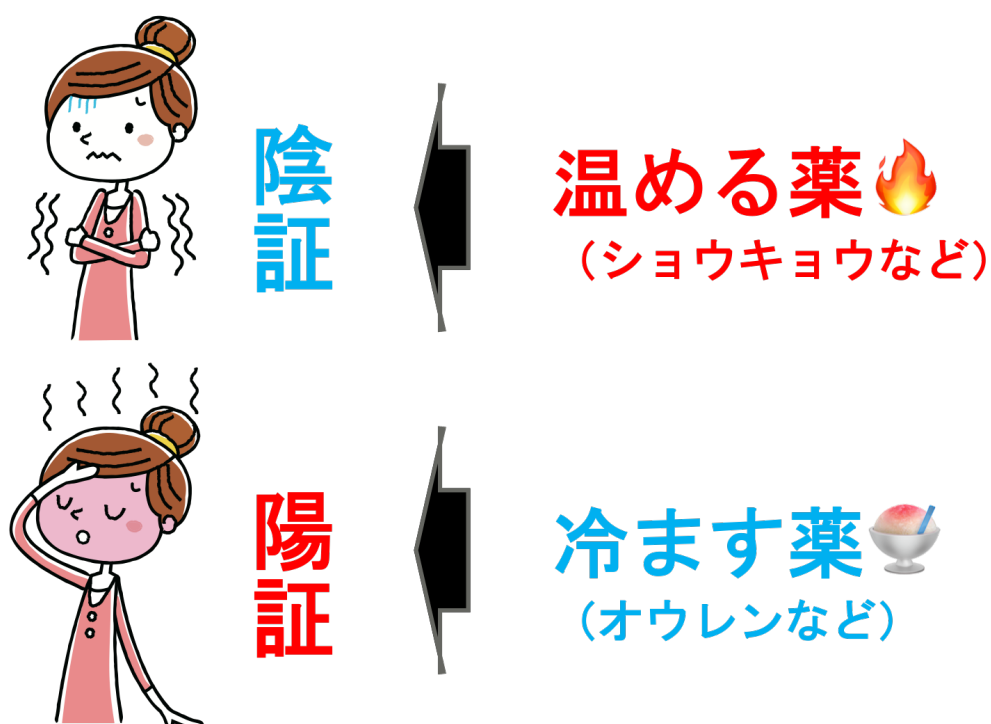


「^{いんよう}陰陽」とは、全ての事象を陰と陽の二つの性質に分けて考えるという中国の思想です。

これを病態に当てはめ、^{きよ}虚と^{じつ}実、^{かん}寒と^{ねつ}熱、^り裏と^{ひょう}表などに分けて考えますが、日本漢方では主に寒熱に着目し、概ね全身的に^{いんしやう}寒の性質の強いものを「陰証」、^{ようしやう}熱の性質の強いものを「陽証」と呼んでいます。

	手足	飲み物	脈	便	顔色	鼻水
陰証	冷える	温かいものを好む	遅い	下痢気味	青白い	水っぽい
陽証	ほてる	冷たいものを好む	速い	便秘気味	赤い	粘稠

漢方薬はたくさんの生薬を組み合わせて出来ていますが、生薬には温める作用の強いもの、冷ます作用の強いものがあり、陰証であれば温める、陽証であれば冷ますことを治療の原則としています。



5) 虚実^{きょじつ}：エネルギー不足の「虚」、悪いものが入る「実」

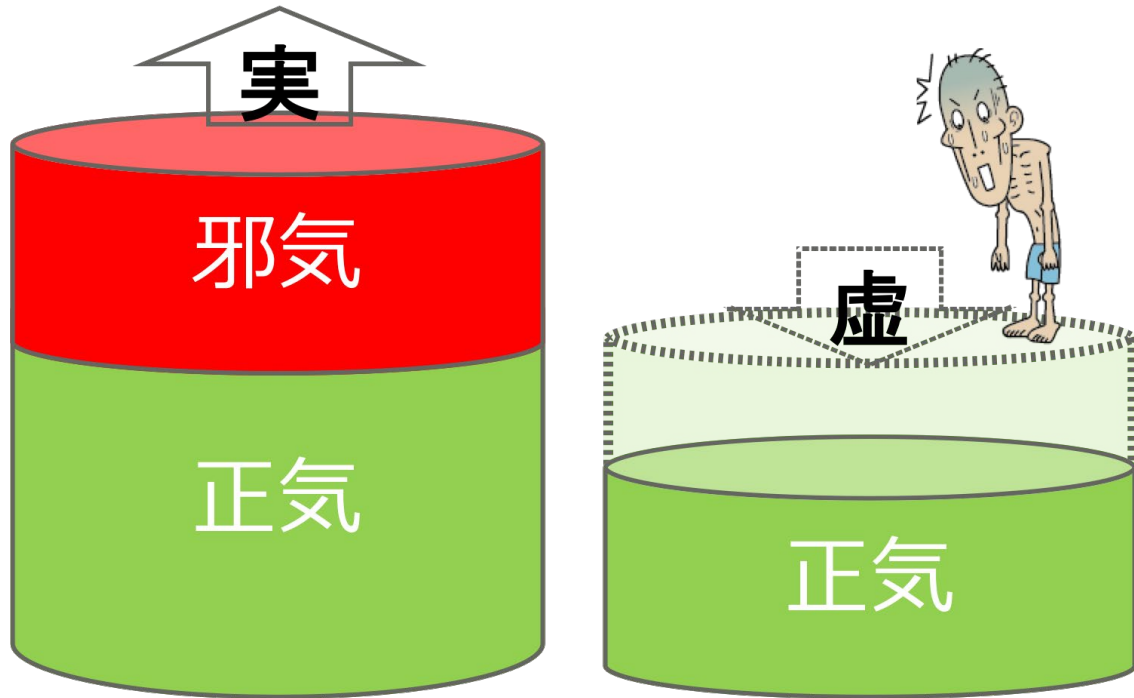
陰陽と並んで日本漢方で重要視されている基本の病態診断が「虚実^{きょじつ}」です。

やはり本によって様々な定義が書かれており、混乱が生じています。

虚とは足りないこと、実とは余計なものが入っていること^{きょじつ}です。病態で言えば、

虚とは「本来持っているエネルギーの足りない状態（「**止気**の**虚**」）、実とは「何

か悪いものが入ってきている状態（「**邪気**の**実**」）のことを言います。

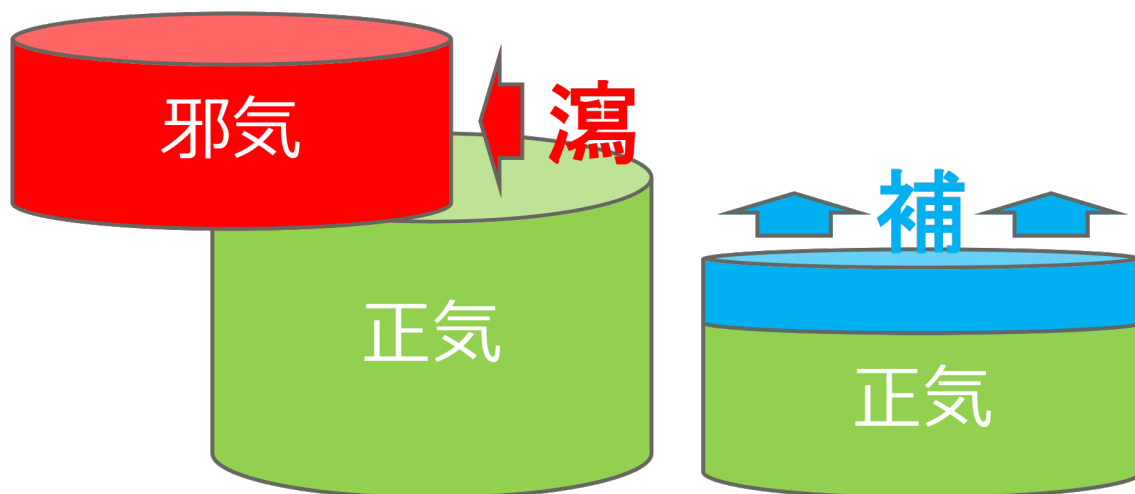


これも陰陽と同様に治療の考え方に直結しており、虚証の人には足りないもの

を補う様な生薬を、実証の人には悪いものを出させる様な生薬を用います。

この治療の考え方を「**補虚瀉実**：虚すればすなわちこれを補い、実すればすな

わちこれを瀉す」と言います

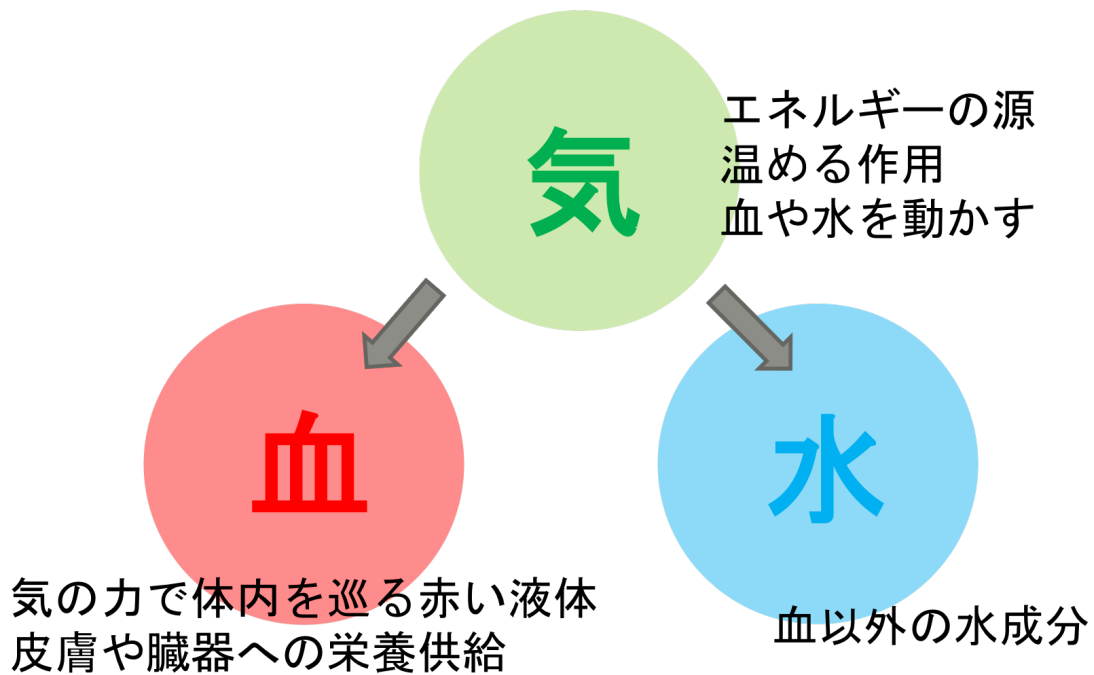


6) ^{きけつすい}気血水：体の中の3大物質

前項で「正気の虚」と言いましたが、何が足りていないのか、何を補えばいいの

か、それを考えるための便宜上の概念として漢方で想定しているのが、「^き気」「

^{けつ}血」「^{すい}水」という3大物質です。



気とは生命のエネルギーの源で、全身を巡ってあらゆる生理的作用を推進する
ものです。血や水を従えるもので、体を守ったり温めたりしています。

血は気的作用で体を流れる赤い液体で、いわゆる血液に相当し、皮膚や臓器を栄
養するものと考えられています。

水は血以外の水分であり、体を潤したり、体の熱を冷ましたりする作用があると
されています。

7) 気血水の異常：不足 or 停滞

気血水の異常は主に、①**足りなくなる**、②**停滞する**、の2種類に分類されます。

気が足りない状態を **気虚**、血が足りない状態を **血虚** と言い、気が停滞した状態を **気滞** (または **気鬱**)、血が停滞した状態を **瘀血** と言います。

水だけは足りなくても停滞していても **水毒** という言い方をしますが、主に停滞した状態が問題とされることが多いです。

不足			
証	症状	治療	代表的生薬
気虚	意欲低下、易疲労、自汗など	補気薬	ニンジン、ジュツ、オウギなど
血虚	皮膚乾燥、爪の変形など	補血薬	トウキ、ジオウ、シャクヤクなど
水毒	口渇など	生津薬	カンゾウなど

停滞			
証	症状	治療	代表的生薬
気滞	張った痛み、抑うつ、便秘など	理気薬	ハンゲ、チンピなど
瘀血	刺す痛み、色素沈着、月経異常、便秘など	活血薬	センキュウ、ポタンピなど
水毒	めまい、嘔吐、下痢、浮腫など	利水薬	ブクリョウ、チョレイなど

前項と同じ様に、例えば気虚であれば**気を補う生薬** (補気薬) を使い、気滞であ

れば**気の流れを良くする生薬** (理気薬) を使うという風に考えます。

8) まとめ

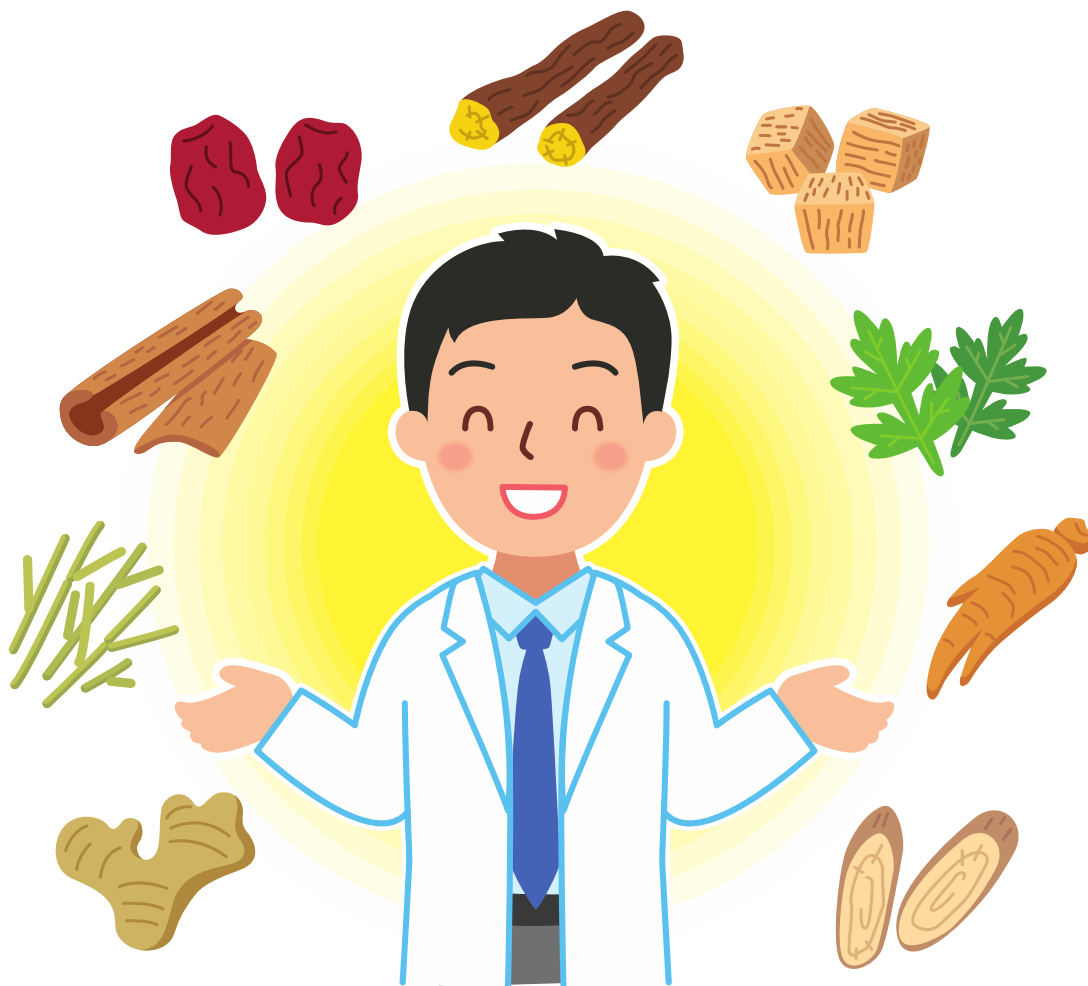
これらはまだ基本的な話ですが、こういったことを理解すると、漢方薬に含まれている生薬から見て、より深く考えられる様になります。

このほかにも、「ごぎょうろん五行論」、「ごぞうろっふ五臓六腑」、「ろくびょうい六病位」など、日本漢方でも使用する理論はいくつもあり、今後このページでも随時触れていければと思います。

まとめ

- 漢方は中国から入って日本で独自に成長を遂げた伝統医学
- 独特の細かな診察を行い、漢方の診断「証」を判断する
- 体質・病気への反応を、陰陽・虚实などに分けて考える
- 気・血・水の3つの物質の状態での病気の状況を理解する
- 漢方薬に含まれる生薬は、それぞれに役割がある

以上を踏まえて、各疾患における漢方薬の選び方について考えていきたいと思
います。



漢方治療に興味のある方は消化器センター医師までご相談ください。